

令和3年度  
劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
成果報告書

団 体 名	公益社団法人宝生会	
施 設 名	宝生能楽堂	
助成対象活動名	人材養成事業	
内定額(総額)	394	(千円)
	公演事業	0 (千円)
	人材養成事業	394 (千円)
	普及啓発事業	0 (千円)

## (2) 令和3年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	青雲会	6月23日	能「枕慈童」内田朝陽 他 能「箴」今井基 他	目標値	730名
		宝生能楽堂		実績値	342名※
2	宝生能楽堂インターンシップ	8月17日～ 2月15日～	「能楽概論」宝生和英、「稽古体験」、 「文化財保護」門脇幸恵、 「イベント企画」望月真也、等々	目標値	15名
		宝生能楽堂		実績値	23名

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>1. 「能楽という伝統芸能を後世に伝える」ことは宝生会にとって重要なミッションであり、その為には次の能楽師の育成が必須である。各々師と仰ぐ能楽師より稽古を受け研鑽に努めてはいるが、実際に舞台を経験し学ぶ機会は限られている。そこで「青雲会」では、まだ能楽協会に登録していない藝大生や地方出身者なども広く出演し、舞台経験だけでなく、番組作成や公演開催にあたっての運営等を学ぶ好機となっている。宝生和英宗家監修の元、最年長の出演者を中心に宝生会事務所と協力し、当初予定通りに運営された。</p> <p>2. 「能楽という伝統芸能を後世に伝える」事と並び「能楽の魅力を広く世に知らしめる」事も宝生会にとって重要なミッションである。インターシップでは能楽の体験をはじめ、文化財保護や舞台マネジメントなど様々な講座を設けることにより文化事業に興味を持ってもらい、運営側としてより優秀で熱意のある人材を育成している。</p> <p>宝生和英宗家をはじめ、能面師後藤佑自師、明治大学准教授日置貴之氏等一流の講師陣により、当初予定通りに運営された。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>1. 「青雲会」は若手の育成を目的としているため、能楽協会へ登録されていない学生なども広く参加しており、その為に無料公開にしている。有料公演にすることにより参加者が制限されると本末転倒となる。</p> <p>今後も事業を継続してゆく為に経費をご助成いただく事は文化的・社会的に大きな意義がある。</p> <p>2. インターシップの性質上、もともと収益を上げることを目的としない為、ご助成頂くことにより、多彩な外部講師を招聘し、高い質の講座を維持することが可能になる。学生達に文化事業の重要性を感じ理解してもらうことは運営者を育成してゆくためにも大きな意義がある。</p>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

#### 1. 青雲会入場者数

6月23日 179名      10月20日 163名      合計 342名

目標値は730名以上で設定していたので、達成は出来なかった。

観客からの実演家の評価について

6月23日 満足28名、不満足8名、その他4名      10月20日 満足42名、不満足3名、その他2名

合計 満足70名 不満足11名 その他6名      合計87名

お客様満足度  $70/87=80.4\%$       目標値は87.5%以上で、達成は出来なかった。

\*但し勉強会という性質上否定的な見解も歓迎すべきで、今後の改善の為に有効活用してゆく。

#### 2. 宝生能楽堂インターンシップ参加人数

8月17日～ 14名      2月15日～ 9名      合計23名      目標値は15名

150%の達成率となり、目標を大きく上回り達成した。

宝生能楽堂インターンシップ参加大学数

合計で16大学からの参加      目標値は7大学以上で達成した。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

1. 能楽を後世へ伝えてゆくために若手の育成は不可欠で、恒に継続的な人材が投入されることが望ましい。「青雲会」は30年以上年2回継続的に行われており、新たに宝生流能楽師への道を目指す新人や若手能楽師へ貴重な舞台経験の場を提供し続け、流儀に送り出し続けている。その結果近年能楽界においても後継者不足は問題となっているが、宝生流においては能楽五流のなかで一番若手の層が厚いといわれている。総合的に事業時期は適切かつ計画通りに行われ有効な人材確保に役立っている。
2. 能楽師の育成同様に運営等に係わる人材も継続的に人材が投入されることが望ましい。「宝生能楽堂インターシップ」は年間年2回実施され、伝統文化に興味を持つ人材を集め続けている。新型コロナウイルス感染症の影響で学生のアルバイトの雇用が減る中、インターシップ終了後も、能楽堂の受付や会場案内等のアルバイトとして活躍している学生もあり、有効な人材確保に役立っている。結果的に事業時期は適切かつ計画通りに行われているといえる。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

1. 「青雲会」に係わる番組作成費、三役の出演料等いずれも適正な価格をもって運営し当初の計画通りだった。
2. 「宝生会インターシップ」に係わる費用は、適正な価格をもって運営し当初の計画通りだった。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

1. 「青雲会」は入場無料かつ平日昼間の公演ということもあり、地域の方たちが気軽に足を運ぶ機会になり得るが、実態は把握できていないので、今後アンケート調査などを実施し、地域の皆様にも宝生流の若手の成長を見守っていただけるような事業に育ててゆきたい。
2. 宝生能楽堂周辺には数多くの大学が有り、東京都内でも有数の文教地区であるためか、難解と言われる「能楽」に興味を持ち、意欲的に「宝生能楽堂インターシップ」へ参加してくれる地元の学生に多く出会うことができた。又、インターシップに参加した学生たちの多くがアルバイトとして能楽堂へ足を運び続けてくれており、自然に能楽に触れる機会が増えている。地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮できた。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

1. 「青雲会」は入場無料かつ平日昼間の公演ということもあり、地域の方たちが気軽に足を運ぶ機会になり得るが、実演芸術等の振興にどのように結びつけてゆくかは今後の課題となる。
2. 「宝生能楽堂インターシップ」のカリキュラムには「稽古体験」があり、学生が能楽を体験する機会がある加えて、家元自らが講演する「能楽概論」なども講座も設けている。今回インターシップへの参加者は標値を大幅に上回る23名となった。又参加者の所属大学も以下の通り能楽堂周辺を中心に多岐に渡っている。参加者は積極的に質問をする等、皆意欲的に参加しており、これらの学生がここで得た知識やノウハウを持ち帰る事は文化芸術の発展に大きく寄与する。

8月 お茶の水女子大学 2名、上智大学 1名、共立女子大学 1名、実践女子大学 2名、慶應義塾大学 3名、成城大学 1名、明治大学 1名、明治学院大学 1名、東京外国語大学 1名、筑波大学 1名

2月 中央大学 1名、共立女子大学 1名、同志社大学 1名、学習院大学 1名、専修大学 1名、慶應義塾大学 1名、東京大学 2名、青山学院大学 1名

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

1. 「青雲会」事業は、能楽師としての実技の向上と、事務所と協力し会の運営を体験する事で全般的な能力の向上を目指し、最終的には次代の宝生流を担う人材を輩出する事を目的としている。

「青雲会」の前身である「勉強会」も含めると約40年続いており、宝生流の発展に寄与してきた事を踏まえると、事業を通じて組織活動が持続的に発展したと十二分に認められる。

以下ご参考

P（プラン）

青雲会番組作成（参加者、演目を決定）

会の運営方法等の決定（宣伝方法：メールでのご案内・入場形態：オンライン予約・電子チケットの活用を決定）

O（実施）

ご助成をうけプラン通りに実践する

C（チェック）

青雲会には家元監修の元担当指導者がおり、実施後演技に対する公表をする。

入場者にアンケート実施、当日運営中での問題点の洗い出しをする

A（改善）

次年度の参加者・演目を検討

電子チケット以外の取り扱いを検討

2. 「宝生会インターシップ」事業は、次代を担う学生を対称に「伝統文化」に係る人材を育てる事を目的としている。「伝統文化」現在5年目を迎えているが、初年度受講生1名は現在弊会に在籍し、以降も受付等のアルバイトや、その他配信助手、事務補助等各々の適性と希望に応じて弊会の運営を補助してくれており、持続的に発展に寄与していると認められる。

以下ご参考

P（プラン）

カリキュラムの決定、運営方法の決定（チラシの作成、宣伝・募集方法等）

O（実施）

ご助成をうけプラン通りに実践する

C（チェック）

各講師にご意見を伺う

受講者にアンケート実施し問題点の洗い出しをする

A（改善）

次年度のカリキュラムを検討

募集範囲や募集方法等を検討